

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401137		
法人名	医療法人 栄和会		
事業所名	医療法人 栄和会 グループホーム サンテの丘		
所在地	〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊3000-1		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	平成29年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271401137-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271401137-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成29年11月9日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"><li>・病院併設の施設であり、医療面に関しては医療連携として訪問看護と契約を結び、利用者の健康管理や病状について指導・助言をもらい対応している。急変時の対応は病院と連携を図っており迅速な対応を行ってもらっている。</li><li>・利用者の家族の方も病院併設の施設であり、病気について安心できると言われている。</li><li>・利用者の意思を尊重し、出来るだけ在宅で過ごしているような雰囲気作りを心掛けている。</li><li>・職員は研修会や勉強会に参加して知識・技術の向上に努めている。</li></ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「サンテの丘」は、南島原市郊外の閑静な住宅街に位置する2ユニットのグループホームです。利用者の散歩コースからは普賢岳が望めるほか、桜並木やコスモス畑などもあり、四季の移り変わりを感じられるのどかな環境の中にあります。</p> <p>ホームの母体は古くから地元医療に携わられている医療法人であり、健康に関する市民公開講座の開催や災害医療派遣、清掃活動などのボランティア活動にも力を入れ、地域の医療・福祉の充実に貢献できるよう取り組まれています。職員に対しても福利厚生面や勉強会等の充実などが図られ、安全で長く働ける職場環境の整備に努められています。</p> <p>職員の殆どは、同法人の介護施設や事業所で高齢者介護の経験を積まれており、「利用者本位」を始めとする介護の基本を踏まえたサービス提供がスムーズに行われているといった印象を受けます。</p> <p>管理者や職員は、利用者を含めたホーム全体を大家族のように捉えられており、愛情を持って接し、アットホームで和やかな雰囲気づくりが心がけられています。また、利用者に毎日の生活の中で生きがいを持って頂けるよう、それぞれの能力に応じた役割をお願ひするなどしてハリのある暮らしを支援されています。</p>
--

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所、休憩室に掲示し理念を踏まえたケアが出来ているかチーム会やサント会議にて話し合い取り組んでいる。	職員はシンプルでわかりやすいホームのローガン意識しながらサービスを提供されています。また、ユニット毎に年間目標を掲げ、利用者の生活の質の向上を目指されています。一年ごとに達成できたかの評価にも取り組まれ、次年度につなげられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の理髪店や美容室を定期的に利用したり、当施設主催の夕涼み会に近隣の方々に参加してもらい交流を図っている。	自治会の協力を得ながら地域の一員として活動されています。レクリエーション用に沢山の手作りけん玉を頂いたり、近所の方から野菜や魚のおすそ分けを頂くなどの日常的な交流もうかがえます。ホーム主催のお祭りには近所の人々も招待されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に自治会長に日常生活の様子やケアの取り組み状況を報告したり地域の中学生の体験学習の受け入れを通し活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、自治会長、家族の代表、行政の方、訪問看護の所長を交え意見交換を行っている。議事録を作成し参加できなかった職員にも共有しサービスに生かしている。	家族代表・自治会・行政関係者・訪問看護の所長等のメンバーで定期的開催されています。ホームの職員も交代で会議に出席し、普段の利用者の様子を伝えられています。会議に欠席されている家族については、入居費支払い時に議事録を渡すようにされています。	
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・町担当者との連携は密にとれていないが、地域の中学生職場体験学習の受け入れを行っている。	制度などでわからない点がある時は、運営推進会議の際に尋ねて速やかに解決を図るようにされています。行政の担当者は一年毎に交代されていますが、現時点までは特に問題もなく、円滑な連携を取りながら業務が行なわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を守るため施設の方針で身体拘束は行わないようにしてケアを行っているが20時以降から7時までは危険防止のため玄関は施錠するようにしている。	基本的に身体拘束は行わない方針です。帰宅願望やその他で利用者が落ち着かれない時には、言葉かけをしながら利用者の見守りを行うようにされています。一人でホームの外に出してしまった時の事も考え、自治会や近所に事前の協力依頼も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止の研修会に職員参加した職員は学んだことを他職員に伝達し職員間で話し合いながら意識を高め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加した職員は学んだことを伝達講習会で他職員に伝達し全職員が理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約の際は利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね十分な説明を行い、理解納得して貰った上で、契約、解約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族の方へアンケートを取り、集計結果を職員間で共有したり年3回家族交流会を開き意見・要望を聞く機会を設けている。又、意見が自由に言えるように受付に意見箱を設置している。	敬老会やクリスマス会などの行事の際に家族会を開催し、意見交換が行われています。職員は家族の方が面会に来られた際には、信頼関係を深めるよう言葉かけを心掛け、家族の要望や意見の把握に努められています。頂いた要望については職員間で話し合い、対応されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議やチーム会を開き、意見交換や提案を出し合う機会を設け反映させている。	会議で職員の意見を聞くほかに、管理者は個別での相談も受けられています。職員一人ひとりの状況を把握したうえでシフト調整も行われています。また、定年後に契約社員として働くこともできるなど、法人全体で働きやすい環境整備に取り組まれていることがうかがえます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベルアップの為、研修会にも参加して向上心が持てるように努め、業務の内容も役割分担し責任を持って取り組めるようにして、必要に応じて業務改善も行っている。できるだけ有休取得できるように人員確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修に積極的に参加できるようにしている。又個人が参加したい研修にも参加してもらっている。研修後スキルアップと情報共有の為、法人内で伝達講習会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会に参加したり、グループ対抗風船バレー大会等にて交流を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の情報を十分把握し、日頃よりコミュニケーションを取り利用者が話しやすい環境を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学で日常生活・雰囲気を感じてもらい、利用申し込み時、充分話を聞き納得出来るよう説明し要望に合った対応が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握し、どのサービスが必要か検討し、本人、家族と相談しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で欠かせない作業、洗濯物畳み等分かち合い職員も助けてもらっている。色々な事を教えてもらい、同じ話題を共有しながら支え合う関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に合わせ定期的に家族交流会を行い、家族同士の交流も図れている。サンテ便りで日頃の様子を見てもらったり、面会時や急変時は入居者さんの現状報告し家族との交流を常にとる様になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が馴染みの人を連れて来られたり、孫、ひ孫など面会多く良い関係が築けている。ゆつくりと面会が出来るよう支援に努めている。	買い物やお墓参りに同行したり、電話を支援したりと利用者の要望や希望にはできる限り応じられています。利用者の友人や近所の方がホームへ遊びに来られた際には、個室でゆつくりと親交を深めていただけるように配慮され、いつでも気軽に遊びに来て頂けるように努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く会話出来るよう席の配置を考えている。手作業など貼り絵も実施した。月に1回クッキングを行い一緒に作ることで交流ができた。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先に訪問したり、家人に状況を聞いたりしながら関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を記入してもらい、入居者や家族、関わりのある人に話を聞き、できる限り本人本位で検討し介護計画に取り入れている。	日常的なサービスは利用者の個人のペースに留意して行われ、テレビを見る時間や消灯なども本人の意思が尊重されています。ホームの意向として、利用者や家族が望まれることは可能な限り叶えていきたいといった考えのもと、希望に沿えるよう努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を記入してもらい、本人、家族、関係事業所からの情報をもとに、これまでの経過の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の望む過ごし方になるよう支援し、毎日のバイタル測定にて心身の状態把握に努めている。生活の中に本人の持っている力を活かす機会を設け、生き甲斐の一つとなるよう支援している。(例:洗濯たみ・干し、新聞折り・新聞取り、ゴミ箱作りなど)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または必要時にチームカンファレンスを実施し、課題やケアのあり方について話し合っている。本人、家族とも話し合う機会を設け、家族に現状の説明や意向等を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画書の評価は、担当職員により一カ月毎に行われています。利用者の状況と共に計画に沿った介護ができていないかを検証し、更新の際の参考にされています。疾病など利用者の状態に変化があった時は速やかにカンファレンスを開催し、介護計画が練り直されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンやワークシート活用し、個々の日々の状態を記録し、業務に入る前は必ず目を通すようにしている。特記事項は申し送り帳やパソコンの特記欄に記入し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況、家族の要望に応じ、他事業所と連携を取り、その人にあったサービスが提供できるよう考慮している。訪問看護師などにも相談を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力の元、避難訓練を行ったりグループホーム主催の風船バレーに参加し、他のグループホームとの交流を楽しんだり花火の段取りを組み近隣の方に声かけし季節感を味わってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの眼科、歯科など本人や家族の要望がある時は必要に応じて各専門医の医療を受けられるよう支援している。	ホームの救急指定病院は母体の泉川病院とされていますが、本人や家族の希望があれば昔からのかかりつけ医の継続受診が可能です。利用者の各かかりつけ医とホームとはそれぞれ連携ができており、スムーズな診療が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で少しでも変化あれば所長(看護)、職場内の看護職員に相談している。週1回訪問看護師が来所しており個々の状態説明し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際、サマリーを作成し状況を説明。所長が代表で医療機関訪問し医師や看護師により入院状況や病状の経過を聞き、出来るだけ早期退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を行っており本人家族の要望を聞きながら状況に応じた対応が出来る様、家族に話し合いも早い段階でしておりかかりつけ医や訪問看護ともチームとして支援に取り組んでいる。	医師や訪問看護ステーションと連携を行い、ホームでの看取り体制は構築されています。利用者本人の気持ちを一番考えた上で、本人・家族と随時確認を行いながら終末期の医療や介護を進められています。看取り期は、家族にホームに泊まって頂き、付き添うことも可能です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全職員は年1回BLSの研修を受け、急変等の対応を勉強し、又、所長と看護職員はACLSの研修を受け急変に備え介護の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	大規模災害マニュアルも作成しており、年2回消防署立会いの元避難訓練を行っている。また地域の人々の協力が得られる様、近隣の方と交流を行っている。施設の周囲の片付けしたり定期的にコンセントの掃除している。	定期的に夜間を想定した避難訓練も行われています。災害時にすぐに職員が行動できるように、停電や地震・災害時の為の解りやすいフローチャートが作成され、目につく場所に貼られています。県の災害マニュアルを参考に、ホームに応じた災害対策マニュアルも作成されています。	地域とは行事などを通じて交流されていますが、災害時における協力連携については、再考する余地があると思われます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴を理解し訴え時は十分に傾聴し尊敬の念を持ち、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応を行っている。	職員は、利用者の自尊心を傷つけたりすることがないように言葉遣いや行動に注意を払われています。特に日常会話では、利用者の言葉に耳を傾けるように努められています。本人の趣味や嗜好品については、継続できるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望を尊重し自己決定出来るようにコミュニケーションを取り、気軽に話してもらえるような信頼関係を作っている。理解力に合わせて説明し自己決定しやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調、レベル、本人の希望に合わせて趣味や外気浴、散歩などを楽しんでもらい、入居者さんのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は希望に合わせて近隣の店を利用している。起床時の洗顔や入浴後は化粧水やクリーム使用し全身の保湿に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は好みの食べ物や季節の物を取り入れて提供している。ゆっくり食事を楽しみたい人には一人テーブル使用している。本人の摂取状態に合わせて提供している。月に数回クッキングを行い、入居者と一緒に作ったりしている。又、赤飯を食いたいと希望があり、1日、15日は必ず提供している。	食事は生活の中での楽しみと考え、利用者の好みを尊重して料理を提供するよう心掛けられています。カレーが苦手な方は、その方の分だけハヤシライスにしたりと臨機応変に対応されています。家庭菜園で育てた野菜も食卓に上っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある人や食の細い人には好きな物や、食べやすい物に変更している。水分制限のある人や飲水量少ない人の為、飲水チェックを行い、好みの飲み物にて対応し、飲み込み悪い人にはトロメリンを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人は毎食後、歯磨きの声かけを行い、介助の方は洗面台にお連れし介助を行っている。夕食後は義歯預かり洗浄消毒を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し個々に応じた排泄間隔でトイレへ誘導し排泄の失敗やおむつ使用を極力減らす支援を行っている。	排泄チェックシートを活用する他、利用者のことをよく理解した職員が表情や仕ぐさから読み取り、一人一人のパターンに合わせたトイレ誘導が行われています。利用者への言葉かけも羞恥心に配慮して直接的な表現を避けるように配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し個々の排便状態をチェックし、ヨーグルトや水分などを提供し、体操や歩行訓練をすることで体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望や体調に合わせて入浴してもらっている。	基本的には一日おきに入浴されていますが、毎日入浴を希望される方などには柔軟な対応が見られます。脱衣場はエアコンを稼働し、浴室も蒸気で室温を温め、温度差が生じないように配慮されています。利用者の状況に応じて二人介助を行い、事故がないようにも努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中疲れたらソファーや居室で休んだり、個々に合わせ対応し一日一回は外気浴や体操で体を動かすことで夜間良質な睡眠が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各カルテに内服資料をファイルし、内服変更や追加時は申し送り帳に記載することで全員が把握できている。看護がセッティングし内服一覧表を確認しながらダブルチェックを行い、誤薬が無いよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の生活歴や得意な事を活かし、家事手伝いをしてもらったりしている。また、散歩などに出たりして季節感を味わってもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候や天気の良い日には外気浴やドライブに行ったりしている。また本人希望に合わせ近くの理髪店、美容室にもつたり、家族と一緒に外出したりしている。	個別で行くドライブや散歩、日用品の買い物などは日常的に行われています。ホームの行事として四季折々の花見も行われています。重度化に伴い外出が難しい利用者もおられますが、暖かく晴れた日には敷地内での外気浴などにより、気分転換につなげられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が不能な方は、お小遣い帳を作成し職員が管理している。欲しい物があれば希望に沿ってお金を使用している。又、お金に対し不安がある方は、家族の了解のもと、自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話で話せるよう支援している。話せない時には用件を代わりに伝えるなどしている。手紙は受け取ると本人が保管できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間には季節を感じられる壁紙を作成し飾っている。室内の明るさや室温、テレビの音量などは利用者の希望に沿って調整している。温湿度計設置しており快適に過ごせるよう支援している。	天井の高い開放的な造りで圧迫感を感じることなく、快適に過ごせる空間です。キッチンはおオープンな造りで、利用者が調理を一緒にしやすくなっています。感染予防の点からホーム内の清潔には気を付けられており、日中と夜間にそれぞれ清掃が行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを複数設置し、個人のクッションやひざ掛け使用し、足を伸ばしたり、テレビをくつろいで見れるような空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、寝具や小物、自宅で使用していた物を持ち込んでもらい、本人が使いやすい配置を行い居室でも快適に過ごせるよう支援している。	各個室には備え付けのクローゼットと洗面所が完備されていますが、その他は自宅を使い慣れた家具や小物類、テレビやラジオなどの電化製品が持ち込まれています。居室は利用者のプライベート空間との認識のもとでサービスが提供されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能の低下を防ぐ事や出来る事を活かすように心掛け、手摺の設置や居室での家具などの配置を行い、安全に生活できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に提示し意識づけると共に、月1回チーム会や会議で理念に沿った介護ができていますか話し合い取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散髪屋や美容院を利用したり、近所の保育園児の散歩時立ち寄ってもらったり声掛けし交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に自治会長に日常生活の様子やケアの取り組み状況を報告したり地域の中学生の体験学習の受け入れを通し活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、自治会長、家族の代表、行政の方、訪問看護の所長を交え意見交換を行っている。議事録を作成し参加できなかった職員にも共有しサービスに生かしている。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・町担当者との連携は密にとれていないが、地域の中学生職場体験学習の受け入れを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳を守るため施設の方針で身体拘束は行わないようにしてケアを行っているが20時以降から7時までは危険防止のため玄関は施錠するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止の研修会に職員参加した職員は学んだことを他職員に伝達し職員間で話し合いながら意識を高め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加した職員は学んだことを伝達講習会で他職員に伝達し全職員が理解できるようにしている。現在1名の方が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得してもらった上で契約解約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族の方へアンケートを取り、集計結果を職員間で共有したり年3回家族交流会を開き意見・要望を聞く機会を設けている。又、意見が自由に言えるように受付に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員から意見や提案があると聞き、月に1回の全体会議やチーム会を行い意見交換や話し合いも行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベルアップの為、研修会にも参加して向上心が持てるように努め、業務の内容も役割分担し責任を持って取り組めるようにして、必要に応じて業務改善も行っている。できるだけ有休取得できるように人員確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や外部研修に積極的に参加出来る様になっている。又、個人が参加したい研修にも参加してもらっている。法人内で伝達講習会を開きスキルアップにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会に参加したり、風船バレー大会等にて交流図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の情報を十分把握し、利用者が話しやすい環境を作り本人の意向を十分傾聴し頼ってもらえる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学で他の入居者さんの様子やホームの雰囲気を感じてもらい、利用申し込み時十分話を聞き納得してもらえる様説明し、要望にあった対応が出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握しどのサービスが必要か又、適当かを検討し本人と家族と相談しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で欠かせない作業、洗濯物畳み等分かち合い職員も助けてもらっている。色々な事を教えてもらい、同じ話題を共有しながら支え合う関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に合わせ定期的に家族交流会を行い、家族同士の交流も図れている。サンテ便りで日頃の様子を見てもらったり、面会時や急変時は入居者さんの現状報告し家族との交流を常にとる様になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人も面会に来てもらえる様家族にも声掛けしている。又、本人の希望があれば馴染みの美容室やお店に行ける様支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係把握に努め孤立しない様声掛けし、職員が間に入り会話したりテーブルの配置を変えてみたりと支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先を訪問したり、家族に状況を聞いたりして関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を記入してもらい、利用者や家族、関わりのある人に話を聞き出来る限り本人本位で検討し介護計画に取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係事業所から生活歴や生活環境、病状等を聞き馴染みの暮らしや生活環境把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の望む過ごし方になるよう支援し、毎日のバイタル測定にて心身の状態把握に努めている。生活の中に本人の持っている力を活かす機会を設け、生き甲斐の一つとなるよう支援している。(例:洗濯たみ・干し、新聞折り・新聞取り、ゴミ箱作りなど)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または必要時にチームカンファレンスを実施し、課題やケアのあり方について話し合っている。本人、家族とも話し合う機会を設け、家族に現状の説明や意向等を聞き、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンやワークシート活用し、個々の日々の状態を記録し、業務に入る前は必ず目を通すようにしている。特記事項は送り帳やパソコンの特記欄に記入し職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況、家族の要望に応じ、他事業所と連携を取り、その人にあったサービスが提供できるよう考慮している。訪問看護師などにも相談を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力の元、避難訓練を行ったりグループホーム主催の風船バレーに参加し他のグループホームの方と交流を楽しんでもらったり、花火大会は近所や職員の子供を呼び交流してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の眼科、歯科及び家族の要望がある時は必要に応じ各専門医の医療が受けられる様支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日常の関わりの中で少しでも変化あれば所長(看護)、職場内の看護職員に相談している。週1回訪問看護師が来所しており個々の状態説明し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際、サマリーを作成し状況を説明。所長が代表で医療機関訪問し医師や看護師により入院状況や病状の経過を聞き、出来るだけ早期退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を行っており本人家族の要望を聞きながら状況に応じた対応が出来る様、家族に話し合いも早い段階でしておりかかりつけ医や訪問看護ともチームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全職員は年1回BLSの研修を受け、急変等の対応を勉強し、又、所長と看護職員はACLSの研修を受け急変に備え介護の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	大規模災害マニュアルも作成しており、年2回消防署立会いの元避難訓練行っている。また地域の人々の協力が得られる様、近隣の方と交流を行っている。施設の周囲の片付けしたり定期的コンセントの掃除している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴を理解し訴え時は十分に傾聴し尊敬の念を持ち、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決定する事ないよう気軽に話してもらえる様な信頼関係を作り、理解力に合わせた説明する事によって自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調、レベル、本人の希望に合わせ趣味や外気浴などを楽しんでもらい、入居者さんのペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は希望の店や近隣の店を利用している。入浴時は自分の着たい洋服を選んでもらっている。本人の好きな化粧品や服を買いに同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は好みの食べ物や季節の物を取り入れて提供している。本人の摂取状態に合わせて提供している。月に数回クッキングを行い、入居者と一緒に作ったりしている。又、赤飯を食べたいと希望があり、1日、15日は必ず提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある人や食の細い人には好きな物や、食べやすい物に変更している。水分制限のある人や飲水量少ない人の為、飲水チェックを行い、好みの飲み物にて対応し、飲み込み悪い人にはトロメリンを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、介助が必要な方は口腔ケア支援している。必要に応じてマウスウォッシュ等も使用している。入眠時は義歯洗浄消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し個々に応じた排泄間隔でトイレ誘導を行い、排泄の失敗やオムツ使用を極力減らす支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、個々の排便状態をチェックを行い、水分補給に努めている。又、体操、歩行訓練を行ったりヨーグルトを提供したりして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は決めているが本人の希望、病院受診等あれば関係なく対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中疲れたらソファーや居室で休んだり、個々に合わせ対応し外気浴や体操で体を動かすことで夜間良質な睡眠が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各カルテに内服資料をファイルし変更や追加時は申し送りノートに記載し全員が把握出来る様にしている。看護がセッティングし内服一覧表を確認してダブルチェックを行い、誤薬が無い様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を出来るだけ取り入れる様にし、買い物や外気浴をし気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候や天気の良い日には外気浴や散歩に行ったりショッピングに行ったりしている。また本人希望に合わせて近くの理髪店、美容室にも行ったり、家族と一緒に外出したりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には家族の了解のもと金銭管理を支援し、管理不能な方には職員が管理し各個人のお小遣い帳を作成している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話で話せるよう支援している。話せない時には用件を代わりに伝えるなどしている。手紙は現時点では希望者おらず支援していない。希望あれば対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間には季節を感じられる壁紙を作成し、飾っている。色々な音や声の大きさにも配慮しながらゆっくりと時間を過ごしてもらえる様にしている。空調についても温度調整し快適に過ごせる様に支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを何個も置いてあり、テレビを見たり会話したりきままに過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、寝具や小物、自宅で使用していた物を持ち込んでもらい、その都度必要時は本人家族に声掛け相談しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能の低下を防ぐ事や出来る事を活かす様に心掛け、手摺に設置や居室での家具等の配置行い安全に生活出来る様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			